

研究実施のお知らせ

2021年3月29日 ver.1.1

研究課題名

入院関連静脈血栓塞栓症(VTE)の発症率, 治療および予後に関する検討

研究の対象となる方

2018年11月1日～2020年6月30日の期間中に島根大学医学部附属病院を退院した18歳以上の方のうち入院中に静脈血栓塞栓症(venous thromboembolism; VTE)を発症した方

研究の目的・意義

VTEは深部静脈血栓症(deep vein thrombosis; DVT)と肺塞栓症(pulmonary thrombotic embolism; PTE)をあわせた疾患概念で、静脈内に血栓という血の塊ができて血管が詰まる病気です。エコノミークラス症候群として知られていますが、長時間同じ姿勢でいることや外傷・骨折・手術・出産・感染・がんなどで血が凝固しやすい状態の時に起こります。とくに重症PTEの場合は生命にかかわります。

当院では独自のVTE予知・予防・治療ガイドラインを2013年8月にオンライン化し、カルテ上でリスク評価を入力するシステムを構築しました。2018年11月には、主治医が退院時要約に入院後VTE発症の有無を記載する運用が開始となりました。そのシステム有効性評価の調査結果から、VTE発症は予想以上に高率であることが明らかとなりました。

これまでわが国におけるVTE発症率は欧米に比較して低いと考えられていましたが、近年の研究から増加傾向であると推察されています。今回のように、全入院患者を対象とした調査はわが国では非常に少ないため、「肺塞栓・深部静脈血栓防止ワーキング」で取得したデータは、大変貴重であると考えられます。また、VTE治療や予後の現状、検査の有用性などもわかります。そこで私どもは、ワーキングで取得したデータを利用した観察研究を行うことと致しました。

研究の方法

院内の「肺塞栓・深部静脈血栓防止ワーキング」の検討において、臨床経過や症状、検査結果、画像所見、治療薬などから「入院中にVTEが発症した症例」を同定します。入院関連VTE発症率は、小児科を除く期間中の退院患者の全数を分母とし、VTE発症者数を分子として算出します。VTEの発症、治療、予後と入院時VTEリスク評価との

関連についても検討します。検討に必要なこれらの情報は、電子カルテから取得いたします。研究で用いる情報はすべて匿名化して厳密に取り扱いますので、もし学会や論文で公表する場合も個人が特定できないような形になります。

研究の期間

2020年4月28日～2024年3月31日

研究組織

この研究は、島根大学医学部臨床検査医学講座、循環器内科学講座、附属病院検査部および医療サービス課の協力を得て行います。

研究責任者（研究で利用する情報の管理責任者）：臨床検査医学講座 矢野彰三

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2021年10月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部臨床検査医学講座 矢野彰三

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話（FAX） 0853-20-2309